

い年月をかけて身につけた多くの知恵をもっている。それをつかもうとしているのだが、まだまだ勉強不足でつかみ切れていない。今後も水とかかわるミズワラビとその周りの自然に触れ合って、さらに探究していきたいと考えている。

引用・参考文献

- 岩槻邦男編, 1992. 日本の野生植物 シダ. 平凡社.
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版.
日本シダの会, 1979. 日本のシダ植物図鑑1. 東京大学出版会



図7 農薬で枯れたミズワラビ(姫路市)

コカナダモが山口県にもあった

南 敦

1995年7月22日, 山口県立高森高等学校教諭秋丸浩毅氏からコカナダモが島田川の各地にあったとあって, 標本の確認を求められた。

島田川は山口県周南部にあり, 第2級河川。その河口は光市に注ぎ, 河口の幅は約100m, 川の長さは約40km以上もある。

筆者は同月27日, 河口から上流に向かって調査した。河口近くからオオカナダモは多量に見られたが, コカナダモはオオカナダモやごみにわずかに引っかかっているにすぎなかった。約10km以上の上流になると, 流れの速いところではオオカナダモのみであったが, 川の曲り角などで流れの大変ゆるやかな, 深さ30cm以下の砂上に20~30cmの純群落が数箇所見られた。直径10cm以上の石が並び, 流速の速いところはオオカナダモのみであった。ずっと上流, 河口より20kmまでのぼり, 玖珂町, 山陽自動車道玖珂IC近くで流れの非常にゆるい, 河床が細砂, 深さ30cmの所に直径50cm位の純群落が5~8個見られた。なお, クレソンは到る所で多量に見られ, オオフサモも各地に見られたが, 以前に多量に見られたクロモはきわめてわずかしき見られなかった。動物では10年前に多数いたテナガエビは1匹も見えず, ヌカエビを1匹みただにすぎなかった。コカナダモは山口県での初記録である。

コカナダモの証拠標本は山口県立山口博物館と宇部短期大学に納入する予定である。また, 自宅にも栽培している。

末筆ながら, コカナダモの情報を御教示いただいた秋丸浩毅氏に厚く御礼申し上げます。

○南 敦著『中国路植物散歩』(葦書房, 1995年7月, 195p, 2266円)

本会会員の著者は, 植物全般に造詣が深く, 当会報にもたびたび新情報を御寄稿いただいている。その著者によるエッセイ風の植物誌である。春から冬まで4部構成になり, 見開きの右半分が本文, 左半分が1~3枚の写真。写真は白黒だが印刷は鮮明でよくわかる。採集会のエピソード, 子供時代の思い出, 古典の中での登場の仕方などに話題が及ぶ一方で, 植物学的内容もきちんと押さえてある。水草はヒシとショウブくらいしか登場しないが, 植物が好きで人であればたいへん楽しく読め, かつ勉強にもなる内容である。

○大分県環境保全課編集『自然ガイドブック小田の池と湿原』(大分県保健環境部発行, 1994年, A4版28p)

小田の池は大分県湯布院町にある。ミツガシワやコタヌキモなど北方系植物(いずれも日本の南限)やいくつかの九州固有植物, 大陸系遺存植物などが分布する貴重な場所としてよく知られる。その自然を動物も含めて紹介したパンフレットが本書である。旧石器時代から今日までの人とかかわりと環境の変化をイラストと写真で描き, 環境への配慮の大切さを訴える構成になっている。地元の研究者の調査の積み重ねがあって初めてできたものである。(角野 康郎)